（大正十年四月二十二日第三種郵便物認可）　昭和十六年三月六日　磐城毎日新聞　（木曜日）　第六千五十七號〔一〕

五日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ケ月　金六十錢
□郵便料　税金十五錢　實費金二錢
□廣告料一欄　金六十錢
□廣告料一欄　金九十錢
□電話番號　編集局　七八八番
□編輯局　平市二丁目　電話　七八八番
發行所　磐城毎日新聞社
發行兼編輯人　森　合　英

閃電　伽藍

進取的であれ

武藏山人

草野又三郎氏談

飯野村荒川に草野又三郎氏を訪ねた處「平市は保守的で現在から一歩も出ようと努力しない、何か計畫を話すと空想だ……とテンから否定する研究しようとか協力するなどの積極性がないから今に小名濱に先を越されて了ふだらう自分も平に永くゐたが人多くして人の居ないのは遺憾だ」と色々な例を引いて玩味すべきことを述べて居られた

× ×

假令ば、平小唄の一節を檢討すると「平五萬石あやめのお濠」とあるが一体平に名所として紹介するあやめの濠が過去に於ても現在に於てもあるか？あゝした唄は多くの場合宣傳が目的だそれに嘘があつて良いか、他所の客に質問されて何ど説明する。出鱈目の作り事を教育會などが推薦し花柳界が踊りまで振りつけて唄つてゐる。教育上惡影響を及ぼすは勿論のこと他の人々は平市民の云ふことを信用しなくなりはしないか。

實際にあるものを紹介し宣傳してこそ始めて信頼され、人も集る。あやめの宣傳も良い、但し實際に公園なり丹後澤へあやめを植ゑて誇るべき名所を作らなければならぬ。近く好條件の炭礦を有しながら人を集める施設、名所が事節的な櫻よりないことなど、平人の頭腦貧困と云より寧ろ行ふことがおつくふがつてゐる傾向多分にある。

もう少し進取的に市の發展を考慮されたらどうか。

訂正　昨紙「小野氏は老境に入り」は小濱氏の誤植

所々干潟となり、昔船を繋いだ所もいつか田甫となり、畑となり昔の跡も見えぬ樣になつた、又世の中にも色々の事があつて乱れた世も治まつた世もあり、だん〳〵住みにくくなつたので、諸國の宮寺を廻らうと旅に出た所が因幡の國で或るやもめ男に遭ひ、土地の人に勧められ再婚した所がだん〳〵年が經つに從つて夫は年老いさらばへて行くのに此の女は一向に顔色變らずいつも若々しいので人々は怪み、化物だらうとか切支丹だらうとか云つて蔭口をきくので此處にもゐられなくなり津輕へ流れて來たと云ふのである。ほら貝が長命の薬とはいかにもほら話のやうである

八紘一宇の理想は武力を以て世界を征服する覇業の完成ではなく、日本文化の普遍光被を圖るにある

（泉二新熊）

長生きの話

（六）

松村亨

人間がもし死ななかつたら可笑しな事になるわけであるが、こゝに藥葭堂雜錄にある話をつけ加へよう。この話は筑前の或る陶器の商人が天明二年奥洲津輕に行つて歩いてゐる中に山路に踏み迷ひ一人の若い女に遭ふのであるが、この女が實は少しも老衰と云ふ事を知らぬ六百歳の仙女で話はその女が物語りをする形で書かれてゐる。それによると女の生年は安德天皇の頃で或時病氣になつて痩せ衰へ死ぬばかりになつた。所が子供が孝行で或日磯に出て一つのほら貝を拾ひ歸りこれを煮て進めたがその味殊の外よろしく覺えたので少しづゝ食につき毎日朝夕その貝を食べた所が病氣は忽ちよくなり、その後は身体强壯となり病を知らず、不思議な事には何年經つても少しも顔色變らず、このほら貝こそ不老不死の藥だつたらうと云ふのである。所がかうなつてくると他の者は皆普通の人間であるから生命に限りがあり、夫も死に子供も失ひ、更に年月經つて孫も曾孫も玄孫も皆年と共に死んで行つて何回も憂ひ悲しみ歎きに會ふのである。自分ばかり少しも衰へず生き永へてゐるので淺ましく世の中が嫌になり海川へ身を投げようとしては人に止められる。思ひ返してよし生きられる迄生きて見ようと云ふ事になつた。そのうちに住んでゐる里のわたりもだん〳〵變つて來て、海も

俳句

習作片々

（好間村）　光女

虫切りの藥師堂ある櫻かな

菜の花に病間の障子開きけり

声の芽や濯ぎ女二人語の戯きす

脱棄てし春着なまめく灯かな

友と來て青き踏むや語りつゝ

櫻鯛王者心の夕餉なる

竹馬の子に郵便を託しけり

連續講談

異說赤穗浪士

桃川若燕　城木喬　畫

（140）

利兵衛の苦惱

『ウム！しからば白狀致さぬといふのか。よいその方には聞かぬ。俥芳松よりきくぞ。これ用意のものを持て』

何が來るかと思ふとかねてうゝ考へはない。如何に惨い調べをすればとてこれは形式だけ見せたもの、斯くすれば親子の情で白狀すると思つたが案に相違したので、

『待て〳〵』

と一聲芳松の渡るのを差止めた。

とお話は別れて利兵衛の妻のおその、利兵衛と子供の芳松に心が殘りつゝも離縁になつて父太田了山の許へ戻つて來てゐる。了山は根が腹黑、おそのが持つて來た三百兩の金子がある内は自分の負債を返したり酒を呑んだりしてゐたが金がなくなると愚圖々々云ひ出した。

『ウム！しからば白狀致さぬといふのか。よいその方には聞かぬ。俥芳松よりきくぞ。これ用意のものを持て』

何が來るかと思ふとかねてうゝ考へはない。如何に惨い調べをすればとてこれは形式だけ見せたもの、斯くすれば親子の情で白狀すると思つたが案に相違したので、

『待て〳〵』

と一聲芳松の渡るのを差止めた。

とお話は別れて利兵衛の妻のおその、利兵衛と子供の芳松に心が殘りつゝも離縁になつて父太田了山の許へ戻つて來てゐる。了山は根が腹黑、おそのが持つて來た三百兩の金子がある内は自分の負債を返したり酒を呑んだりしてゐたが金がなくなると愚圖々々云ひ出した。

『オヽよういうた、ソレ芳松を夫れへ……』

下知の下に芳松を裸体にして引立てる、

『小父さん御免やう〳〵』

と泣いて詫びるのを利兵衛は、ハツタと睨みつけ

『芳松、今云うた事が判らぬか。其方は男の子、泣くなというたら男は泣くものではない笑つてその上を渡つて御覽に入れろ。綺麗な板ぢや、よいか泣いて渡つたら父は其方を家には寄せぬぞ！』

云はれた時、聲をかぎりに泣いてゐた芳松が、ピタリと泣き止んで素足に力を入れて

『オイおそのお前も老い朽ちた身体ではない、器量も十人並すぐれてゐる、此儘にして置くは詰らない。子は親のために苦しむは當然の事、どこかへ再縁して貰ひたい……』

『お父さん、私が利兵衛さんから三百兩といふお金を貰つて來て貴下に上げた筈……』

『それはもう使うて了うた』

『私は利兵衛さんの外には良人は持たぬつもり』

『何、良人をもたぬ……それはいゝさ、食はねえでゐるならいゝけれども飯を食ふではないか、金だつて僅かに三百兩、使つてしまつたらあとは食はずには居られぬからな、是非再婚してくれ』

『私はいやでございます、利兵衛さんとは縁は切れてゐるが芳松といふ子供もあることよその子供を見るにつけ、今頃は芳松は何をして遊んでゐるであらうと思ふと二度と夫を持つ氣にはなれません……』

『それはお前の勝手だ。乃公は是非再婚さしたいと思つてゐる』

と箸の上げ下しにいふから、おそのも辛く思つてゐる。了山は其後天野屋の家の附近まで來たので樣子を見ようと遠くから眺めると利兵衛の家は戸が閉まつてゐる

『オヤ〳〵何處ぞへ越したのかな……』

おでんと　ヤキトリ　田町末廣　一柳

おしるこ　ぞうに　御料理　田毎　平田町　電六三二

ぜんざい　平市新町　電話三三番

軍服と國民服　高島屋の洋服　御注文並に既製品　平市二丁目通　電話三六八番

神戸牛　すき燒　平市仲町　電話二五〇　茶山

王の界ンシミ産國　アサヒミシン　精研舍ミシン　ニポンミシン　迷はず迷はされず國産隨一　音も具合も調子も滿點　シンガーに優る共劣らざる機構　厚物、薄物、和服、洋服裁縫自在　販賣代理店　ンシミーガンシ會商　平市前驛町

專門藥　病んりけしと　痛みある病、熱ある病　岩里別府淋藥　一週間分　參圓（黑）五圓（赤）　岩里別府散　七包入　十五包入　五十錢　壹圓　製藥本舗　別府市　岩里天然堂　代理店　阿康藥局　平市古鍛冶町一〇　振替東京三〇五六番　電話四四番

割烹　はまや　小名濱公園内　電話百廿番

萬年筆は專門店へ　マルオカ萬年筆本舗　岡萬年筆專門店　平市中央通り　公2:00以上

防空暗幕　天幕・ジート・防水マント・カーテン・敷物、防水加工　販賣・製作　●設計と施工●　敷島屋商店　平市六丁目六　電呼四八三番

衡量度器量計　秤・升・シサノモ　計暖寒・器温体　ハカリの取緒垂糸を修繕致します

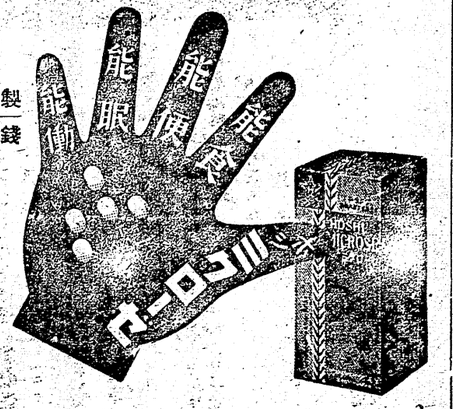
吸入用酸素純度99%　關内藥局　平四丁目　電話四〇番

大小の御宴會にホール　御家族の御同伴に御座敷　いつも材料を吟味して居ります　平市四丁目　マルトモ食堂　（電話一二三番）

ミクローゼ　1家に1個常備の　胃腸・強生ピルツ劑

健康を生産する

ミクローゼは、酵母以上に生存力が强靭で、消化酵素を多量に産生する日本固有のピルツ（有効菌）と、アミノ酸・ビタミンを始め各種榮養素とを豐富に含む胃腸强生劑であります。故に、食慾を旺盛にし、正確・自然な便通をもたらし、榮養の吸收、附加を助け、逞しい健康を生産するのであります。



製創生先郎次豐ゐ豐・博士學醫

一ケ月分・三六〇錠　一圓五〇錢

特に、左記症狀の方々に好適

各種胃腸疾患　食慾不振　常習便秘　結核諸症　脚氣諸症　腎臟炎　姙婦榮養補强

東京・五反田　星製藥株式會社

事變下に四度迎へる 陸軍記念日

回顧する 興亞の覺悟を示す各校の催し

事變下に四度迎へる三月十日の陸軍記念日に際し平市内の各小學校では日露戰爭を回顧、全生徒兒童をして興亞の新秩序を建設する國民的な覺悟と時艱克服の決意を促すべく各學校共それ〴〵プランを進めてゐる

☆縣立磐城中學
山森校長が生徒に訓示し職員始め全員出動して今事變の戰歿勇士の墓地を清掃、午後から校庭で分列式擧行

☆縣立平工業
朝會の際校長訓示、戰陣訓朗讀それより忠魂碑參拜、午後から全生徒出動して目下地均し工事中の同校敷地で勞力奉仕作業實施

☆縣立磐城高女
名士を招聘して講演會開催の計畫中

☆市立平商業
記念式擧行、戰陣訓レコードと配屬將校の講演があり終つて行軍する

☆平第一校
記念式後全校生徒を學級別に分けて休力錬成の行軍遠足を行ふ

☆平第二校
忠魂碑參拜、剛健會開く

☆平第三校
全生徒が忠魂碑參拜、四、五、六年生は更に校庭で愛國行進、分列式擧行

☆平第四校
全生徒の休練遠足計畫中

翼贊會郡支部の顧問參與指名

地方代表者九氏選任

翼贊會石城郡支部の顧問、參與は次の如く指名發表された

【顧問】△石城郡產馬組合長山田村安島重三郎（七二）△磐城炭礦々業所長、內郷村濱崎善三郎（四九）△前代議士、平市鈴木辰三郎（六三）△郡農會評議員、勿來町大平睦四郎（六七）△田村銀行頭取、川前村永山德一（五九）

【參與】△陸軍中佐、四倉町中野正太（五六）△江名町信組理事、太清左衛門（六二）△縣農試分場技手、神谷村矢ヶ崎諫（四三）△縣立回春院長、豊間町安田善一（四〇）

國債賣出し 消化順調

平局で六萬圓

平郵便局の國債賣行きは市内の無盡會社、銀行等で扱つてゐる貯蓄、報國債券とカチ合つてゐるため尠なからず影響を受けてゐる模樣で、局員總動員して消化に努めてゐる。然し四日現在までの賣行きは專賣局平出張所では年度變りの四月を控へ十五年度煙草賣上總決算を取纒め中だが二月末現在までの累計は百四十七萬三百三十一圓五十一錢で前年同期の百十七萬九千三十八圓四十六錢に比較すると二十九萬一千二百九十三圓五錢の六增加で品種別に見ると

△口付二十九萬九千三百五十一圓六十五錢△兩切八十萬五千六百十八圓七十九錢△刻み三十萬五千三百六十一圓六錢

總括的に見て前年同期に比し三割方の增加であるが同專賣所ではこれ以上の增配は不可能だと悲鳴を擧げてゐる、この消費增加は酒もロクに飲めずに働いてゐるヤマの人々にせめて煙草だけでもと親心から炭礦方面へ多く煙草を配給したのに加へ未青年者の喫煙並に酒黨が酒不足からタバコ黨に轉向したのが最も大きい原因と見られてゐる、この對策として買溜買占の絶滅を期するにあるが同出張所では更に一歩進め隣組その他を動員管內の受煙家一齊調査を行ひその結果に基づき配給する計畫も樹てゐる〃巷間大部煙草不足を耳にしますが〃と同出張所煙草主任に聞く

煙草不足を訴へる方も大部ありますが當所では十五年度既に前年同期に比して二十九萬一千余圓の增配をして居ります、勿論管內隨一ですがこれでも足りないのですからこの際未青年者並

今年二月までの煙が 管內で百四十七萬圓

未青年と女性の喫煙へ警告

六萬圓に上り殘部は追加分を合し四萬圓程度であるから豫定の賣出期間までにはどうにか濟ぎつけ樣と張り込んでゐる

日素の硫安增產 本格的に進む

年產八萬トン案成る

日本水素工業小名濱工場では舉げるに至つた同工場ではこれに自信を强め四月一日から實施する豫定の年產八萬トン目標を三月に繰上げて實施し、肥料國策の線に沿うて邁進することに成つた

新年度着工 縣營工事

五ケ所確定

平土木監督所管內十六年度縣工事は目下縣土木部で鋭衝中であるが次の五工事の着工は確定的と見られてゐる

（繼續工事）△小名濱本町舗裝△勿來縣道舗裝工事△蛭田川改修△上遠野村文部澤砂防工事（新規工事）大野村新田川砂防工事

滿蒙開拓義勇軍 平驛から出發

土の先遣隊 總勢六百名・市で壯行會開く

滿蒙開拓福島中隊十六年度〃土の先遣隊〃約六百名が十八日平驛から出發する……昭和十六年度第一次滿蒙開拓青少年義勇軍福島中隊約六百名は十七日午後一時平市公會堂に參集、同午後二時縣社小鍬倉神社で祈願祭を執行、續いて三時より公會堂に壯行會を開き同夜は分隊並に班毎に市內旅館に分割して宿泊、翌日十八日午前九時十分平驛發で大陸の途につく

今次出發する義勇軍は縣下各地より選拔された青少年で二ケ中隊を編成し一行は內原訓練所に入所、三ケ月訓練した上滿蒙現地に出發する豫定である

寢耳を驚かした 深夜の火災

實は鑄鋼所の反射

五日午前三時頃平市堂の前平鑄鋼所より發火、折柄の强風に煽られて火は見る〳〵うちに天を焦し平警防團からは自動車ポンプが駈つけ現場にいつて見るとこれはしたり

同鑄鋼所で鑄鋼爐の蓋をあけた儘作業に從事してゐた爐の火が暗夜の空に物凄く反射し附近のものが火事と早合點、警防團に急報、サイレンを鳴らして大騷ぎと成つたものであることが判つた

臨港鐵道監督

縣道路課奥山技師は三日から五日まで平市石城橋、小名濱臨港鐵道監督のため來郡した

入山の小山田滋氏 本社總務に榮轉

福利施設に殘した功績大

入山炭礦事務部長小山田滋氏は本社理事總務部長に榮進、同時に入山採炭の子會社である茨城縣の中郷無煙炭礦會社取締役に就任、十七日頃一旦單身赴任し月末頃家族を伴つて引上げる豫定である

同氏は昭和七年東京本社から坑務所の人事係長として着任、全十二年事務次長、同十四年事務部長に昇進、この間町會議員、警防團副團長、國婦分會長等湯本町の自治に盡すところ大きく人事係長以來入山自治會顧問として從業員を指導、自治會館の建設や泉村海岸に保養所を建設するなど山元の福利施設には尠なからず貢獻してゐる

〃歌人〃滋氏の送別短歌會

同人等で計畫さる

別項、入山本社へ榮轉の小山田氏は太田水穗氏の主幹する文藝雜誌〃潮音〃の同人で歌人としての教養高く石城郡南部地方の文藝指導に大きな足跡を殘し新妻久滿夫先生とは特に親交が深かつた

市內の歌同人等發起し九日（日曜）に送別の短歌會を開く計畫が進められてゐる

〃山の會〃再出發

體錬して時艱を乘切る

平市の〃山の會〃は指導者の松野尾繁雄氏東京へ轉出して以來ガイドを失くして山に迷うた形であつたが「時局下の体錬に一層强化すべきだ」との意見があり、八日夜七時から常陽銀行二階に同志が集り『山の會再發足』の準備會を開くことに成つた

今度は規約なども作つて中央の山岳聯盟へ加入、密接な連絡を圖つて大いに登山をやらうと何れも張り切つてゐる

當日會費は不要であるから同好の士は多數出席して希望や意見を述べて頂きたいとのこと

堀江工業へ 遠藤技師入社

元本縣河川課長で長野縣土木部砂防課長遠藤佐五右工門氏はこの程平市堀江工業會社技師長に就任した

江名町葬

十四日四柱合同執行

江名町では來る十四日午後一時小學校に祖國の人柱となつた、尊き無言の勇士四柱の町葬を執行する

永崎陸軍一等兵作山庄三郎氏、江名陸軍兵長櫻井金藏氏、全兵長弓田正一氏、全陸軍伍長坂本秀吉氏

無言の凱旋

伊東兵長八日四倉着

四倉町新町陸軍兵長伊東直太郎君は八日午後六時五分四倉驛着列車で無言の凱旋する

兒童へ配給

服と靴下劃當數決定

縣では今度平市內各小學校に學生服、靴下を次の如く劃當配給することに決定

△學帽常五年生男子用學生服三百四十一着△靴下四六百二十六ダース

台所費節約 國婦へ寄附

四倉町仲町海產商大丸こと長谷川義久夫人ヨシ子さん（五九）は常に台所の費用を節約して貯めた金二十圓を國婦四倉分會に寄附した

平授產場で 針供養

市では場員を慰勞

平授產場では今五日針供養を開き連日仕事に追はれて忙しい遺家族も今日ばかりは針に感謝して休養する

市では何んとかゆつくり今日一日を慰めてやりたい親心から午後一時より世界館に映畫を參觀、場員五十五名の疲れを一氣に拭きとらせた

連絡會議

市連絡員會議は今五日午後二時から市會議事堂に開いた

拾得金を献金

四倉町仲町故諸橋德藏勇士の母リヱさん（六二）は昨年同地內で二十圓拾得落主が判明せず此度全額二十圓下附されたので內十圓を四日役場に詫し國防獻金とした

馬場氏老母

のぶ媼四日死去

日刊工業新聞、每夕新聞支局長馬場京助氏母のぶ媼は臥床中の處四日午前八時死去した享年七十七才、葬儀は六日午後二時自宅出棺晋門寺に於て告別式を執行する

今週の映畫

【東寶】聚樂館△藤山一郎、德山夢聲、霧立のぼる主演『春よいづこ』△榎本健一主演『ざんぎり金太』△文化映畫『花と受粉』

【新興】世界館△逢染夢子、山口勇主演『笑ふ女』△市川男女之助、松浦妙子『夫婦二世』△大寶映畫『錦繪双六』△文化映畫『春に魁てファンに送る』『野球の妙技』

隣組通信

【投稿歓迎】

◇少年隣組の遠足

平市一丁目南五番地班長高瀨勝男さんは同班四組の少年隣組員二十名を引率、去る二日の日曜日に一同『日の丸辨當腰に夏井村へ遠足山崎の專稱寺、矢の目如來樣にお詣りして有意義な体錬をして來ました

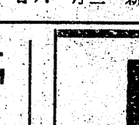
參加者は小學校一年生から六年生まで、落伍者は途中上級生がおんぶして隣保互助の隣組精神を發揚百パーセントの効果を擧げてゐます、高瀨團長の御意見は

『日曜に野放しにして置くとロクなことを覺えず惡戯ばかりしてゐる、ハイキングすると体錬にも成り植物に對する科學的知識も度められる』

成績一石二鳥の効果を上げてゐるやうですから御紹介申上げます

◇耕作と防空壕

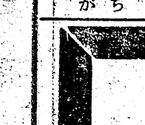
市十五丁目の第十五隣組では色々な事業を行つて居りますが、春の季節から新川南の田圃を借りて一反歩の畑を耕し野菜の自給作を目論んでゐます、組內に警防主任の土居警部補が加つてゐますから、市內の隣り組に先鞭をつけ〃防空壕〃を作らうと組員一同張り切つてゐるとの情報が入りました



▲一白　貪慾は身の發達を妨げ他の尊信を失ふべし
▲二黑　人の事には口を開かず一家の安全を謀る日
▲三碧　身を守ること嚴なれば人に乘ぜらる事なし
▲四綠　騷げば騷ぐ程紛擾の加はる日靜謐なるが吉
▲五黃　冗談の中に邪氣の籠る日辯口に注意すべし
▲六白　健全なる歩調を取れば急がずとも達せらる
▲七赤　大望ならざれば通達す相談事は殊に功あり
▲八白　人の鼻息を窺ひて擯拆せらる着實たるべし
▲九紫　大事を企つるは自ら家の土臺を掘るが如し

曆	二月	三月
日	九	木曜
斗宿	開	佛滅
日	六	丑

新



天氣豫報

今晩　北の風晴天です
明日　朝のうち北の風のち南の晴れ勝ちですが曇が出ます

謹告

定休日　每月二回（第一日曜日）（二十日）

從來每月二十日を公休日と定めて居りましたが新休制に即應し、店主店員の修養日として新たに第一日曜日にも休業することになりました

貸賣廢止

凡ての取引が現金化致しましたから在來の掛賣通帳賣を廢止することになりました御諒承願ひます

公定價格嚴守

販賣商品の價格に疑はしき點ある場合、遠慮無く當事務所電話二二三番へ御問合せ下さい

昭和十六年二月
平市田町銀座通り
平菓子商業組合
電話223番

成田團体募集

一、期日　四月三日四日　午前七時卅七分平發　午前九時頃成田解散
一、會費　金九圓貳拾錢也　宗吾靈堂御護摩料ヲ含ム
一、定員　百五十名　準備ノ都合アリ滿員ニナラヌ中ナルベク早ク御申込ヲ乞フ

平市大新榮講
講元　井上貞治郎

巴式風呂釜
設備一式
大谷建材店
平市鍛冶町　電話六六

高級
林檎酒
ミユキ
醸造元　青森縣弘前市
株式會社　御幸商會

福島、茨城販賣元
石井德重商店
久の町　電話三二番

磐城女學校時代

本校の前身は明治卅七年八月八日、日露戰爭の眞最中、時の町長川島至善氏他二十六名に依つて創立開校した私立の磐城女學校である。川島町長は平藩士で縣立高女の前進運動として女子教育の必要をとなへて高等女學校令に依つて本校を創立したもので、本科と技藝科に分れ、本科は修業年限四ケ年、今の高女の制度であり、技藝科は今の實科に移された。

高女の制度に依つたもので修業年限は二ケ年であつた。校舍は今の鐘つき堂の附近にあつて建物は明治卅八年に出來上つた。當時の建物は現在なくなつてしまつて昔を偲ぶよすがもないが机その他の設備品は廢校の折今の第二小學校氏でこの人は檢定で、茨城縣の人博物や地理を受持つて居られた卒業生は本科が五回で百八人、技藝科が五回で五十四人出てゐる。今の山崎與三郎氏夫人、大一屋の丹野氏夫人、阿部政右衛門氏、木村寅次郎氏夫人などは皆、卒業生である舊職員で現在市に居住する方は中柴光顯、大河原金之助それから今北目に居る鈴木といふお裁縫の先生などである。明治四十五年四月縣立が出來た時は在校生百八十七人を試驗の上縣立高女に收容したので、縣立は創立と同時に四年生迄あつたのである。

公立中等校巡り（5）

私立時代の女學生は 異裝 振袖に素足

（五）磐城高女の巻

この人は東京高師出身の立派な先生で多分棚倉藩の方だつたと思ふ。後石川中學にゆかれた。次の縣立になる際の校長は片岡しゆん弼

當時の生徒は海老茶の袴に白線を一本入れ、元祿袖の着物を着てゐた、平町に於ける一般女子のあこがれでもあり羨望でもあつたものである。風呂敷包を横に背負つて、雨の降る時などは裸足でやつてくるも者あるといふ有樣で、背嚢を背負つて洋服をつけた今の女學生から見ると隨分珍風俗であつたわけだが、當時はそれでハイカラだつたわけである。運動場には遊動圓木やブランコなどがあり、音樂はピノノがなくてオルガンでしたが、先生は皆しつかりした、休操學校や音樂學校出身の方々だつた。

寄宿舍は舊安藤邸で、その一部は裁縫室でもあつたやうだ。思ひ出すのは近くに萬花園といふ植木屋さんの畑があつてそこに燈台のやうに高い塔のやうなものがあつて、その上に上ると見晴しが好かつたことである』

◇

今の縣立高女の創立當時は假事務所が磐城中學にあつて開校當時の職員は全部で十二名、その職員俸給は年五千六百三十一圓、經費總額一萬二千六十六圓といふのだから、現在の職員俸給三萬二千余圓と比較すると驚くべき彫張振である。